

皮膚科医にとって眼は大切な診察道具ですが、年とともに衰えてきました。飛蚊症の発症はゴルフのティーショットを打った瞬間でした。当日は、目にゴミが入ったのかと目を洗ったりしました。翌日に眼科を受診して飛蚊症と診断を受けました。治らないけれど、そのうち慣れるといわれました。確かに半年くらいで気にならなくなりました。その後もう一つ蚊が飛ぶようになり、今も視野に蚊が2匹いますが、何も生活に影響がないので意識しなければ忘れていきます。

老眼鏡とおつきあいは40歳台の後半からです。手術の糸や皮野が少し見えにくい気がして眼鏡店に相談したら、乱視ではなく老眼の始まりといわれました。老眼鏡は英語ではreading glassです。欧米人は物の名前の付け方が素敵です。老いを直接的に表現した老眼鏡というよりも、読書の際に必要なものという言葉のほうがよいイメージです。

私の場合には、もともと近視で眼鏡をかけていたので、最初は必要なときに老眼鏡に変えていました。今は、付け替えるのが面倒になって、日常生活では遠近両用眼鏡をかけています。遠近両用レンズの度は連続的に移行しているため、慣れると遠くも近くも違和感なく見えます。正面の物を見るには不便はありませんが、側方がやや見づらく、視界が少し狭くなるのが難点です。そのため、側方を通る知り合いに気づかないことがあります。長時間運転する際には、視野を広く保つため近視用の眼鏡にしています。また、細かい字の文章を大量に読む際には、遠近両用眼鏡では眼が疲れるため、近距離のみに焦点を合わせた純粋な老眼鏡を使用しています。

問題は診療です。皮疹を診たり施術をしたりするためには目から40～50センチ程度がよく見える近距離用が望ましく、電子カルテ（コンピュータのモニター）を見るには80センチ程度のところにフォーカスの合うレンズ（中距離用）が最適で、診療中は中近両用眼鏡を使用しています。さらに皮疹を細かく診たいときには、明るくして拡大できるダーモスコープを使っています。最近の機器はレンズが大型になり、偏光レンズの使用、不使用を選択できるものがあって便利です。

今後、AIによる診断が進めば皮膚科の診断方法も変わるかもしれませんが、視診の重要性は変わりません。道具をうまく利用して、眼をいたわりながら皮膚科医として長く勤めたいと思います。

（林 伸和）

## — 問 題 —

大原 國章 大塚 藤男

## — 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

### 「皮膚科の臨床」第65巻 第5号 5月号

2023年5月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 48,950 円（本体 44,500 円＋税 10%）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ [www.kanehara-shuppan.co.jp](http://www.kanehara-shuppan.co.jp)

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

#### ・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。